

急募!
獣医師
畜産県・熊本で

産業動物医や県職員獣医師が足りない一方、新卒の獣医師の約半数がペットを診療する小動物医になる。ペットが家族の一員となった生活環境の変化や、所得の高さなどが要因だが、「過剰気味」との指摘もある。

●半数近くが就職

県畜産課によると、県内の産業動物医が98年度の192人から06年度は141人に減った。一方で小動物医は127人から143人に増えた。産業動物医が高齢化で休廃業したり、採算性から小動物医へ転業したりするのに加え、大学新卒者が小動物医になる

小動物医

ペット医志向強い新卒



傾向が強まっているという。

農林水産省による全国の獣医師系16大学の新卒者就職状況調査では、07年度は1076人の卒業生の半数近い486人がペットを診療する動物



病院に小動物医として就職した。開業と団体職員を含む産業動物医数は80人だった。生活に身近な家畜が減り、ペットを飼う家庭が増えた。「動物の医者といえば、ペットの医者、というのが若者の常識」と県畜産課は指摘する。

●料金は自由競争

熊本市尾ノ上の吉田獣医科病院は、吉田浩治さん(69)が66年に開業した。午前8時午後8時の間に犬や猫約50匹を診療し、1週間に約10件の手術を手がける。休日も電話1本で急患に対応する。最近では血統書付きのペット

皮膚がただれた犬のダイ君(オス、16)を触診する吉田博さん(右)。上天草市の自営業何川一海さん(左)が連れてきた熊本市の吉田獣医科病院

収入や家畜減少を反映

固有の病気が増え、ペットが高齢化し認知症による徘徊なども発生する。理不尽な要求をする飼い主もいるという。人間の医師と違い専門科ごとに分かれておらず「産婦人科から歯科まで、すべて勉強し続けたいとやっつけていけない」と吉田さん。休日も研修会で勉強する毎日という。

●20代後半で開き

診療料金は自由競争で、各病院で初診料も手術料も異なる。日本獣医師会によると、小動物医の診療料金は独占禁止法により、獣医師団体(獣医師会など)が基準料金を決めたり、獣医師同士で協定して料金を設定したりできない。同会が99年に全国1631人の小動物医に調査した結果、初診料は無料から5千円未満まであり、平均で1191円だった。

産業動物医の診療料金は農業共済の「家畜共済診療点数表」で決まっている。県共済によると組合加入の家畜の場合、初診料は700円。

県人事課によると、県庁所属の獣医師の初任給は、大学6年卒で20万4千円が基本給で、特殊勤務手当や給与の調整額などがつく。

競争は厳しい。吉田浩治さんの息子で吉田獣医科病院長の博さん(38)によると「薬代をインターネットで調べ、薬は別の安い病院で買うという飼い主もいる」。県中央家畜保健衛生所によると、熊本市内の小動物病院数は10年で3カ所増え、50カ所になった。新たに11カ所が開業し、8カ所が閉院したという。県獣医師会は「小動物医はすでに過剰気味。選別が始まっている」と指摘する。

複数の開業産業動物医や小動物医らの話を総合すると、産業動物医や県庁所属獣医師の所得は仕事の内容や勤続年数などでほぼ決まるが、小動物医の所得の差は開業する年代後半以降、人によって開いていくという。